

1987年6月、私は中国史跡、文化財研修団長小川政吉先生のお供をして北京から西安へと向かっておりました。やがて西安飛行場へ着陸態勢に入った視界いっぱいに見えたものは涯(はて)しなく広がる黄金色した海原でありました。一瞬この黄金色の光景は何だろう？と戸惑いましたが、高度が下がるにしたがってそれは今まで見たこともない広大な麦畑でありました。百聞は一見に如かずと言われますが、日本の庭園風の景色と夕日が野の涯に没する広漠たる中国の景観…スケールの大きさに驚かれました。その翌日の午後、西安の古美術品街を物色しておりましたところ、全く偶然にも山徳さん夫婦とばったり出会いました。その頃はまだ日本人旅行者は少ない頃でしたのでお互いにビックリ！十年ぶりの旧友に出会ったような感激振りでした。彼は開口一番「秋元さん！銀錢の和同開珎を見つけて拝んできたよ！！」と大喜びでした。

山徳さん(山田弘一氏)は当時、古銭蒐集家としては知られた存在でありました。山徳さんとはそんな古い出会いもあって最近では久留里の町には骨董市がよく似合う。是非観光の目玉として市を開いて下さいと進言して参りました。

いよいよ3月24日(土)9時より正源寺境内で開催されることになりました。すでに近隣では高倉観音、市原国分寺、茂原藻原寺、東金上行寺、千葉寺等各地で毎月定市が開かれており、十数年前からは女性客が多くなって、古筆笥や生活雑器、或いは古代裂が現代生活に愛用され、茶道、華道にも用いられ、むしろ現代作家物より好かれております。また一方売り主と文物を値切る時の駆け引き、やり取りも人気の一つの様です。今回は骨董市だけに偏らず、リサイクル・農産物・手工芸・雑貨とにぎわい市を兼ねた楽市楽座も企画されておりますから、全くの素人の参加もできますので、まちのにぎわい、楽しさが話題となると今から楽しみであります。

かつて清和で直売所をされていた方が「今までは捨てていた規格外の野菜や、庭先にある野の花を都会の人達はこれが本物よ！と喜んで買ってくれます。帰られてからまた注文下さる方が多く、嬉しいお付き合いとなっております」と言われます。

また、長野で見たものは、物置や倉庫の隅に邪魔者となっていた古い農具や家具を並べたら、いい値で売れ筋となっていました。

骨董愛好家の方に苦言ですが、骨董品と一口に言われますが、大方は民芸品ですから品物の判断は自分が見て気に入った風景(姿形色)の物があたらご自分の求めたい値段まで「高い安い、良い悪い」でなく予算がないからと値引き交渉して納得して買われることが一番良い買い方であります。愛好者の条件は古美術で儲けようと欲を出さない事です。私達は所詮素人愛好家ですから欲を出せば大損、後悔をします。楽座はすでに落語の会もあります。どこかで合流できればよいですね。石蔵、酒蔵コンサートギャラリーへと広がれば君津の観光文化は大きく変わり、君津市に新しい経済をもたらし、少子高齢化、人口減社会にバーチャル人口増大をさせて、かつて信長、秀吉が城下町の繁栄策とした楽市楽座となるように期待をして、多くの市民のご参加を今からお願い申し上げます。女性会の皆さん！FAX通信220号記念花束…ありがとうございました。